【2025 年 10 月 08 日レジュメ資料】

国際医療福祉大学大学院
＃6　前例を超えて挑戦する人々に学ぶ～医療・福祉・行政・政治の現場で～

# ――新聞記者がソーシャルワーカーになって――
# ～福祉の「繭」を打ち破ってみたら～

東京新聞特別報道部記者
社会福祉士・精神保健福祉士
木原育子（きはら・いくこ）

【中日新聞の紹介】

【経歴】

【「不起訴巡り」「刑務所訪問」】
・容疑者や被告と実際に話して見えてきた本当の現場・・・資料①
・事件と福祉は背中あわせだ！2022 年社会福祉士に
・・・資料②、2023 年精神保健福祉士・・・資料③

【福祉、医療、司法などが専門分野に】
▽新聞記者とソーシャルワーカー（社会福祉士・精神保健福祉士）の葛藤…
⇒新聞記者：情報を社会に届け、みんなで考える…
⇒ソーシャルワーカー：強い守秘義務、個人情報の壁…

例）取材と事例検討会
⇒より具体的に、より正確に…
⇒事例検討会では、性別や状況をあえて変えて報告。新聞記事では「捏造」に

【葛藤】
葛藤は悪いことなのか…消し去らなければならないのか・・・

↓

葛藤も共有しよう、葛藤と共存しよう…

▽連載企画コラム「社会福祉士⇔新聞記者」の誕生

・2022年07月～2025年07月

・計101回掲載

・反響呼ぶ…多くの手紙、相談

・新聞社版「地域包括支援センター」に

【精神医療偏】

▽「精神」はこれからのこの国の熱き「希望」だ！

・「問題」を追及するのは一般ニュースで。

・ コラムでは、「できること」を全面に！

▽一般記事では扱われてこなかったテーマも

・「幻聴日記」全4回

・「措置入院のはざまで」全6回

▽ソーシャルアクションを担う

・さまざまな創作活動も紹介

「精神病院・認知症の闇に9人のジャーナリストが迫る」（ぶどう社）

【司法福祉編】

→再犯者率は高止まり。2人に1人が刑務所に戻る構造は変わっていない

→福祉を必要とする人たちの多さ

→出所者へのスティグマ

→変わらぬ NIMBY（ニンビー）…Not in my back yard（意味：私の家の裏には御免だ）

→被害者の気持ちはどうなるのか

→加害者の更生と被害者への謝罪は関わりはあるが別物と捉えて考えたい

・福祉を必要とする人たちの多さ

・「受刑者」との文通を通してソーシャルワークを試みる

例　50代の男性、1990年代から6度の服役

罪名は全て「窃盗罪」「住居侵入罪」 ⇒できることに目を向けていきたい…

（制度面）

再入率・・・仮釈放＝27・7%、 満期出所＝44・8%　（2023年犯罪白書より）

※無期懲役判決を受けて服役し、出所した男性を取材

服役中の人＝41541人

無期刑受刑者＝1688人（全体の約4%）

仮釈放＝6人（無期刑の中で約0・3%）・・・全体の0．014%（犯罪者140万分の1）

・コラムで連載6回／大きな反響

・「服罪ー無期懲役判決を受けたある男の記録ー」（論創社）

・・・（日隅一雄・情報流通促進奨励賞受賞）

☆社会にできることとは…

※言葉から考える

「障害」＋「者」 ／ 「受刑」＋「者」

※「こと」＋「人」

…結び付けた言葉で、無意識的にスティグマを作り出していないか

…人間性を奪うことに、結果的に加担していることはないのか

☆受刑者の選挙権

大阪高裁（2013 年）違憲

広島高裁（2017 年）合憲、東京高裁（2019 年）合憲

→「受刑者は規範意識が低く、彼らの選挙権よりも選挙の公正が優先する」

→最高裁に上告中…

世界は？・・・

・西欧のほとんどが、受刑者に選挙権あり

・ドイツナチス政権の反省→欧州人権条約で自由選挙の権利を明確に定めている

【夜の街の福祉・・・女性の権利

アウトリーチ活動、実際に公園に立ってみる、自身が値段になる瞬間

・ソーシャルワーカーとして問い続ける

「本当はどうしたかったの」「これからどうやって生きていきたいの」

×「なぜここに立っているのか」

※真実への迫り方が違う

・ソーシャルワーカーの「HOW」

・新聞記者の「WHY」

・最も支援が届きにくい存在

☆支援される側：

・これまでの「傷つき」体験、大人は「敵」／「被害者」と思っていない

☆支援する側：

・乏しい行政支援、民間NPO任せ

※売春防止法の矛盾・・・

2条：売春の定義

1）対償を受けまたは受ける約束、2）不特定の相手、3）性交

3条：売春の禁止

5条：「勧誘等」した側だけの刑事処分・・・つまり、「買春」側は処罰されない…

※「買春側」の処罰は世界の常識

・「北欧方式」…スウエーデンで1998年成立

・「買春側」は処罰、「売春側」は福祉に

・あの…イスラエルでも適応

※連載企画コラム「社会福祉士⇔新聞記者」、来春、書籍化（タイトル未定・「高文研」より）

【福祉の「繭」①】

「繭」…蚕が自身の体から吐き出す絹糸で覆う、さなぎになるための保護空間

「福祉」…福祉を担う人々や法制度から吐き出された絹糸で覆われ、

福祉が必要な人たちのための保護空間

見えない繭の中（閉鎖的な福祉、外部発信の力が乏しい福祉、個人情報の壁）

新聞記者がソーシャルワーカーになって、繭の中が見えたけれど、伝えてはならない葛藤

蚕は成虫になると、繭を打ち破って出てくる

食べる機能を持ち合わせていない口、飛べない羽を持って

飲まず食わずで、ただ子孫を残して、一生を終える…

「福祉」もいずれ、その保護空間を打ち破って出てくる日があるのか…

【アジアの福祉から感じたこと】

☆合計特殊出生率

タイ　2015 年　1.45（日本 1.45）

…

2023 年 1.05（日本 1.26）

2024 年 0.95（日本 1.20）

2025 年 0.86（日本 1.15）　※韓国 0.81,台湾 0.82

☆自殺率（WHOデータ、2021 年発表）

タイ（人口10万人当たり）16.6人

（世界32位、東南アジア最多）

…年間1万人の自死

シンガポール（同）11.2 人

（世界67位）

日本（同）17.4 人

【スラム街とは・・・】

※バンコクには50区（23区別に相当）

※スラム＝人口密集コミュニティ

※住宅公社の定義

40×40の1600平方メートルに15世帯以上

※バンコク都内の登録数は1500～2000地区

タイ全土で5000地区

※登録には自治会や代表者の設置が求められる

登録されると、補助金なども得られる

【福祉の「繭」②】

そもそも「繭」がなかった…

多くの人の手で守られ、その手の隙間から、子どもたちの葛藤がどうしても伝わった…

※いかに日本の「福祉」が、制度という絹糸で覆われたものの中で行われていたかを痛感

☆「繭」という保護空間

守られて安心できる中で暮らせる

一方で…

守られる段階で、「保護する」側と「される側」に選別される現実

本当の「福祉」とは一体何なのか…

【ミャンマーの子どもたちは今】

☆移民：60万人（公式）

70%がミャンマー人（モン族、カチン族、カレン族）

25%がラオス人

5%がカンボジア人…

※200万人、300万人とも言われている

ミャンマーの徴兵を逃れたい人、タイも労働力必要

☆移民の子どもたち

就学統計：2014年、75000人

2023年120000人（タイ教育省）

【急速な高齢化】

2015 年時点の高齢化率（タイでは60歳以上）は 16%

2022 年で 20%超と予想

（人間安全保障省2016年）

※1 人あたりの医療費

2008 年の24000円から

2013 年には39000円に増加（タイ保健省）】

・・・地域包括ケアチステム、日本より根付いている？

【福祉の「繭」③】

夜明け前のバンコク…そもそも「夜」がないバンコク

その影で、「繭」にも入らず

むき出しの「福祉」の存在があった

・格差激しいタイ王国

・流入する移民、「排除」せず、まず「黙認」・・・日本との違いは？

【そして、これから】

3つの「つ」 …つたえる、つなげる、つくる

■つたえる

◎特別視、異端視させず、悲しいストーリーにせず

■つなげる

◎「夜の街」でのアウトリーチ、文通

■つくる

※社会のミツバチに→さまざまな所に飛んで行き、つながり合う仕組み作りを